

「乳幼児おはなし会のわらべうた・絵本」

2021年2月16日 講師 落合美知子

はじめに

2020年5月、新型コロナウイルス専門家会議から「新しい生活様式」の実践例、

①身体的距離の確保 人との間隔 2m（最低1m） ②マスクの着用 ③手洗い 消毒や「3密」の回避（密集、密接、密閉）などの感染予防対策が示されました。

こうした環境の中で、乳幼児の心をはぐくむには、どのような工夫や方法が必要でしょうか？以下は、乳幼児が求めていること、成長に必要なことを見直し、わらべうたや絵本の果たす役割を再考し、心をはぐくむおはなし会に役立てていただく内容です。

資料1「親子でたのしむ絵本とわらべうた」と合わせてご利用ください。

『乳幼児おはなし会とわらべうた』参照

1 声の文化

乳幼児へのまなざし

赤ちゃんが求めていること一人と人の密な触れ合い。赤ちゃんは人と人の間で育つ。

母語（母乳（ミルク）と同様に）一心と体のたべもの

愛情—まなざし、五感への贈りもの、安心感（抱っこなど）

あそび—たのしむ、よろこぶ、応える、能動的、想像・創造力

赤ちゃんは、声（肉声）が好き！うたが好き！

肉声の触れ合い（応答）一人と人の絆、心の触れ合い

子守唄—赤ちゃんへの語り。あやし、寝かせるうた。

♪このこのかわいさ♪ちよちちよち あわわ

赤ちゃんの不思議—いのちの歴史と成長過程

誕生～3カ月まで、4、5か月～1歳前後～3歳ころまでの特徴を見直す。

「センス・オブ・ワンダー」の世界とは—乳幼児の五感の働きを満たす。

ことばの獲得

人間の特徴、他の動物との違いとは？

*絵本『どうぶつのおかあさん』

人間の赤ちゃんは、ことばを求めている！今日の環境、電子メディアの影響を考える。

・コミュニケーション、応答、人の心に触れる。

・能動的な関わり、模倣、

*『子どもとことば』参照

2 乳幼児がはじめて出会うことば・うた・絵本

わらべうた、絵本の読み聞かせは、人間が獲得してきたことばをたのしむ。

わらべうたとは（定義）

「子どもが自ら歌い、または、大人に歌ってもらいながら、伝承してきたうた（唱えのことば、子守唄も含むものとする）」（落合）

ことば—口承、コミュニケーション、母語の特性（日本語の特徴で歌われ（唱えられ）、ことばの獲得に繋がる）。

歌詞（高低のリズム。詩の世界、*注 マジック・アンド・ミュージック）

遊び—主体的、身体性、社会性 人や虫、動植物とのコミュニケーション。

音楽—鼓動・リズム、日本の伝統音階、音域の幅も狭い。音楽の基礎（拍、リズム）。

風俗・習慣、地域性などが織り込まれている。

<特徴>

伝承 伝えられてきた遊びのうた、ことば（歌詞）。大人が子どもに、また、子どもから子どもへ伝えてきた子ども自身の文化。作者はわからない（童謡との違い）。

繰り返し 繰り返すと継承。1つのうたを子どもから子どもへと何度も歌った。繰り返して、シンプルになった。

歳時 行事等、季節ごとに大人、子どもが共有してきたうたなどもある。

いのちをつなぐ いのちからいのちへ、いのちを繋げてきたうた、ことば。

(注) マジック・アンド・ミュージック (ハーバート・リード) — 『幼い子の文学』より

「ある言葉は耳に快く響きますし、口にすると舌に感じのよいものです。またある言葉は魔力をもち、心を神秘感(ワ
ンダー)でみたまします。マジックとミュージック、これが最良の詩にはふたつながら具わっています。そしてそれが
一緒になって、詩の特別な喜びを私たちに授けてくれます。」

乳幼児と絵本・わらべうた

*絵本『あーそーぼ あーそーぼ』

声、ことばで心の触れ合いをしましょう。

リズムミカルに、楽しんで絵本を読み、わらべうたで遊びましょう。

「コミュニケーション・応答」♪ととけっこう よがあれた♪おちやをのみに きてください

「能動的な関わり、模倣(遊び)♪にんぎにんぎ ♪にっころにっころ

「想像、創造性」♪いないいないばあの例 絵本『でてこいでてこい』、『たまごのあかちゃん』

「身体性」わらべうたの例 ♪このここのこ ♪いちり にり さんり

わらべうたと絵本の共通性(文学的特徴) —

ことば—素朴で具体的なことば、音がよく響きがよい♪ととけっこう『でてこいでてこい』

型、スタイル—反復、問答、対照的な見方 ♪あんたがたどこさ 『おつきさまこんばんは』

リズム—母語のリズム ♪さよならあんころもち 『がたんごとん がたんごとん』

3 乳幼児おはなし会—ことば獲得の過程にある子どもと保護者、本と子どもをつなぐ。

お母さん(お父さん)、身近な方 ⇄ 乳幼児

↑

支援者(図書館員、ボランティア等) 絵本とわらべうたを届ける。

乳幼児おはなし会の「わらべうた・絵本」

ことばとの出会い・獲得、自然・人とのコミュニケーション(絆)、読書の基盤、

本との出会い、図書館の扉を開ける、継承の場、たのしい世界、いのちを育くむ。

コロナ禍では、特に家庭に届けたい—*資料1参照

<おはなし会の実践> 型の例

→おはなし会の入口(導入)出口(終わり)は、繰り返し同じうたや絵本で行う等。

導入 (子守唄、わらべうた、絵本)

親子の触れ合い遊び (抱っこ、向き合う、膝上のせ、くすぐり、布あそび、季節のうた)

終わり (絵本、わらべうた) *おはなし会の型が同じだと参加者は安心して参加できる。

導入 ♪ねんねんねやま 絵本『でてこいでてこい』 (くまさんの人形を寝せて置く)

♪ととけっこう (くまさんを起こす。くまさん人形があいさつをする)

♪おちやをのみに (参加者の赤ちゃん一人ひとりをみて歌う)

抱っこ ♪このここのこ (ゆっくり揺すって歌う。月令に応じたテンポで。「このこ」を名前)

顔遊び ♪ここはとうちゃん (参加のお母さん(お父さん)が、赤ちゃんの顔をよくみるように)

くすぐり ♪いちりにりさんり (赤ちゃんを床に寝かせて、足先から触れて最後にこちょこちょと)

身体遊び ♪あしあしあひる (寝ている赤ちゃんの足を交互に動かしながら歌う) ♪いもむしころころ (歌いなが
ら体を左右に動かしてやる) 膝上遊び ♪うさぎうさぎ

布遊び ♪にぎりぱっちり ♪いないいないばあ ♪えんやらもものき

終わり 絵本『ひよこさん』 ♪おやゆびねむれ ♪さよならあんころもち

参考の絵本・資料

<絵本—わらべうたと共に>

- 『いないいないばあ』 (松谷みよ子文 瀬川康男絵/童心社)
『でてこいでてこい』 (はやしあきこ作/福音館書店)
『おつきさまこんばんは』 (林明子さく/福音館書店)
『ととけっこうよがあげた』 (ましませつこ絵/こぼやしえみこ案 こぐま社)
『もこ もこもこ』 (たにがわしゅんたろう作 もとながさだまさ絵/文研出版)
『きゅうりさんあぶないよ』 (スズキコージ作/福音館書店)
『ひよこさん』 (征矢清さく 林明子え/福音館書店)
『がたんごとんがたんごとん』 (安西水丸作/福音館書店)
『たまごのあかちゃん』 (かんざわとしこ文 やぎゅうげんいちろう絵/福音館書店)
『わたしのワンピース』 (にしまさかやこ えとぶん/こぐま社)
『どうぶつのおかあさん』 (小森厚ぶん 藪内正幸え/福音館書店)
『あがりめさがりめ』 (ましませつこ絵/こぐま社)
『あんたがたどこさ』 (ましませつこ絵/こぐま社)
『めのまどあけろ』 (谷川俊太郎文 長新太絵/福音館書店)
『いろいろおせわになりました』 (やぎゅうげんいちろう さく/福音館書店)
『あーそーぼ あーそーぼ』 (ひろのたかこ作『こどものとも0、1、2、』2019年4月/福音館書店)

<わらべうたの参考図書>

- 『あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん』 (小林衛己子著/のら書店)
『子どもとお母さんのあそびうたえほん』 (小林衛己子著/のら書店)
『乳幼児おはなし会とわらべうた』 (落合美知子/児童図書館研究会)
『にはほんのわらべうた』全4巻 (CD付き) (近藤信子著 柳生弦一郎絵/福音館書店)
『わらべうた』で子育て 入門編/応用編 (阿部ヤエ著/福音館書店)
『うたおうあそぼうわらべうた』 (木村はるみ 藤田友子著/雲母書房)
『わらべうた—日本の伝承童謡』 (町田嘉章・浅野建二編/岩波文庫)
『日本のわらべうた』歳事・季節編/室内遊戯歌編/戸外遊戯歌編 (尾原昭夫編著/文元社)
『近世童謡童遊集』日本わらべ歌全集 27 (尾原昭夫著/柳原書店)
『古今童謡を読む』 (尾原昭夫、大嶋陽一、酒井董美著/今井出版)
『子どもの心に灯をともしわらべうた—実践と理論』 (落合美知子著/エイデル研究所)
『詩ってなんだろう』 (谷川俊太郎著/筑摩書房)
『幼い子の文学』 (瀬田貞二著/中公新書)
『センス・オブ・ワンダー』 (レイチェル・カーソン著/新潮社)
『声の力』 (河合隼雄・阪田寛夫・谷川俊太郎・池田直樹著/岩波書店)
『子どもとことば』 (岡本 夏木著/岩波新書)
『いい家庭にはものがたりが生まれる』 (落合美知子著/エイデル研究所)
『メディアにむしばまれる子どもたち—小児科医からのメッセージ』(田澤雄作著/教文館)
『赤ちゃんのはなし』 (マリー・ホール・エッツぶん・え 壺井郁美やく/福音館書店)
『0歳児がことばを獲得するとき 行動学からのアプローチ』 (正高信男著/中公新書)
『子どもはことばをからだで覚えるメロディーから意味の世界へ』 (正高信男著/中公新書)